

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	3 / 1957 / 17-23
タイトル	青森市のゼフィルス 青森市に於けるZephyrusの分布と食草関係
著者名	棟方堯

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

青森市のゼフィルス

はしがき

ゼフィルスとはミドリシジミ亜科ミドリシジミ族の総称として、我々に親しまれているシジミチヨウで、その我が国に於ける種類数の多い事は、甲虫のピドニアと並んで魅力であり、珍重がられて来た。

我々がゼフィルスと云う題で本稿をまとめるに至ったのは、我々の現在までの成果を中間的に報告する所である。以下三つの論文で判る様に、青森市のゼフィルスの種類数は極めて多く、その分布も極めて興を滞せるものがある。しかし分布はともかくとして、生活や日周活動には所々に不完全な部分が目立っている。これは我々の不注意に影響するものであろうが、事実を報告し、不完全な箇所は今後の調査に期待したい。

筆者 藤野 室谷洋司、佐々木完治は、蝶に興味を持ち、特に1957年度は環境調査、食草の確認、日周活動を数回の野営によって調査を実施した。食草の確認については以前の記録に追補して来たものであり、日周活動は新しいテーマとして今後の調査の主要に置きたいと思う。

青森市に於けるゼフィルスの分布

榎 方 堯

青森市に於けるゼフィルスの生態概観

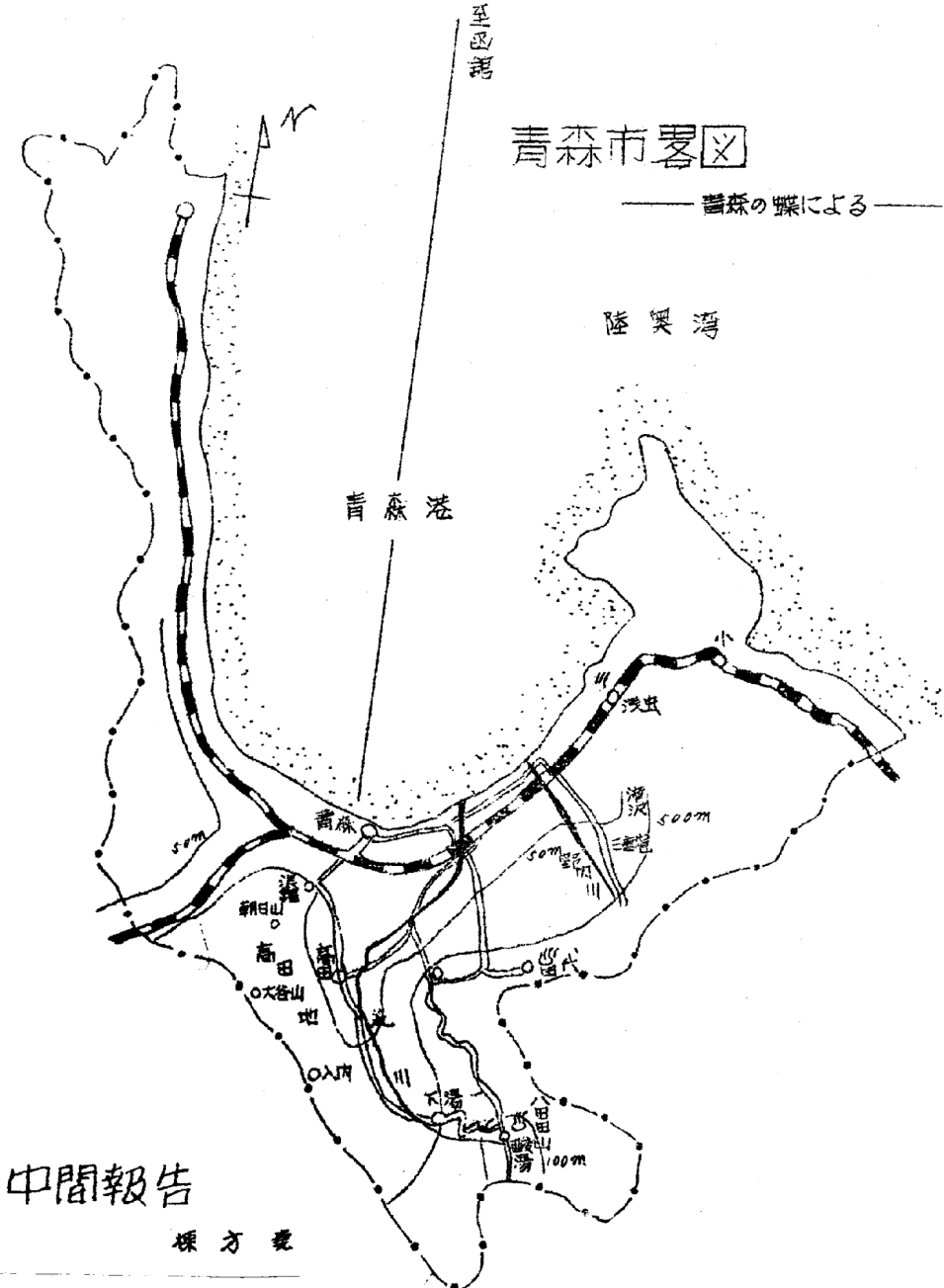
室 谷 洋 司

青森市に於けるゼフィルスの日周活動

佐々木 完 治



青森市に於けるZephyrusの分布と 食草関係



我が国内の四地域の Zephyrus の分布北海道 8 種、本州 24 種 (ヒロオビミドリジミ 加えて)、四国 14 種、九州 17 種で本州に全種類が産するといわれています。

本州の北端に位置する青森市にはたしてどれだけの Zephyrus が産し、どのような環境上に

どのような分布をいしているか興味を持ち昭和28年より現在までの調査を続けてみました。

青森市は県の中央に位置し、青森駅を基点として大小幾つかの山が青森平野を囲んでいる。当市は北緯40°48'、東経140°45'に有り、東西35.5Km、南北36.4Km、総面積70087Km²でその内訳は田5065町、畑1432町、宅地283435町となっている。面積分を%で表わせば田畑10%、山地15%、原野20%、国有地45%で東北有数の都市である。

河川は八甲田山中に源を發する荒川、駒込川、東方の奥瀬川に源を持つ野内川がある。

気候

☐——2

項目 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
気温平均	-2.7	-2.0	0.5	6.8	11.8	16.0	20.8	22.9	19.4	12.0	5.9	0.0	9.02
降水量	158.0	107.6	95.7	92.6	93.4	153.1	22.8	122.9	154.2	86.8	56.9	16.5	129.2
風向 (31年度)	W	W	W	SW	SSW	NE	ESE	SSW	SW	WSW	WSW	WSW	SW
平均風力 (31年度)	5.4	5.5	4.9	5.5	4.9	3.8	2.2	3.7	2.7	3.8	4.7	5.7	4.0

東奥年鑑 市勢要覽

着名産地

前項で知るように、青森市は広く三方が山地帯、一方は青森湾に臨んでいる。着名産地とは、その中でも最も種類数の多い、特殊な環境をなして、稀な種が多く棲息している所である。即ち着名産地には我々の足が多く運ばれて来た所であり、珍しい蝶について、多く知り得た。一般にそれは山地帯であるが、青森市の着名産地なるものは、万遍無分布している。その高度も夫々異なつて、低山地から高山地まで夫々の特色が表われている。

調査要綱

- 1) 青森市に於けるゼフィルスの種類
- 2) 青森市に於けるゼフィルスの分布
- 3) 青森市に於けるゼフィルスの食草

調査法

- 1) 過去5年樹、青森市の山を歩きまわり、それによる資料を基にしてまとめました。
- 2) 調査対象地域は、環境が異なりゼフィルスの多く産する所。
- 3) 各地域の棲息確定は、成虫、卵、産卵目撃からである。
- 4) 食草確定幼虫、卵採集より

浪館山

青森駅北東5Kmで浪館山のスキー小屋に着く、調査に与つた地帯が一番低く標高20m~30mで、山容は奥に斜めらぬで、積雪は1m~2m5月の下旬まで雪がある。植物帯は針葉樹林35%、広葉樹林25%、草地35%、その他田圃など5%、針葉樹林の内訳は松が一番多く松と杉とで針葉樹林の全部をいしている。広葉樹林の内訳はミズナラ、カシワが多くコナラ、

クリ、アカシマ、ハンノキ、ヤマハンノキなどである。草地にはマメ科、十字科植物が多く牧草地となっている。樹木の高さは4m～8mで採集は容易です。又沼など所々に散在しキンヤンマ、オニヤンマ、オオルリヤンマなど蜻蛉が多数飛んでおり、その周りにはゴモウセンゴケやヒメウメバチソウなどが群棲し多くの植物が植えております。

Zephyrus 以外の蝶類としてはゴマシジミ、オオルリシジミ、オオヒカゲ、ツマジロウシヤノメ、キチヨウ等約80種の蝶を産する。

浪館のセイフイルス

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. アカシジミ、 | 2. ウラナミアカシジミ |
| 3. ムモンアカシジミ | 4. ウラゴマダラシジミ |
| 5. ミズイロオナホシジミ | 6. ウラスダシジミ |
| 7. ミドリシジミ | 8. メスアカミドリシジミ |
| 9. オオミドリシジミ | 10. ハヤシミドリシジミ |
| 11. ウラジロミドリシジミ | |

浪館のミズナラは高さ2～7mで密生し、その密生したミズナラにアカシジミ、ウラナミアカシジミ、ミズイロオナホシジミが多数棲息している。このことは飯沼完治君が詳しく述べている。

オオミドリシジミ、ハヤシミドリシジミ、ウラジロミドリシジミはカシワを食草として混合して棲息しており、市内ではオオミドリシジミ、ハヤシミドリシジミ、ウラジロミドリシジミの一番多く産する所である。ミドリシジミは主にハンノキを食草としているが、まれにはヤマハンノキに幼虫が見られることもある。またこの地では、いずれの棲息地よりも多く産している。

ウラスダシジミはミズナラを食草としている。

ムモンアカシジミ、ウラゴマダラシジミ、メスアカミドリシジミ、この三種は成虫を数頭採集しいろいろ棲息は確定しているのであるが、食草全然不明である。

高田

高森駅起吳ノ0km、標高60～125m。山容はなめらかである。浪館の延長であり、やはり畑地や草地が多く、山間の谷間には湿度が発達している積雪は浪館同様1～2m。

植物相は、十字科植物が多く、クロウメモドキやウツギ、サンショウその他、マメ科や、イバラ科のものが多い。荒地にはササ類が繁茂し、ジャノメチヨウ、セセリチヨウ類の食草として重要である。Zephyrus に関係ある植物は、浪館に多かったミズナラ、カシワに代り、ミズナラは所々に散在するのみで、カシワが圧倒的に多く、次にオニスルミ、イボタ、ヤマサクラ、マンサク、コナラ、ミズナラとなる。樹木の高さは7m～10mである。主な蝶はゴマシジミが多く、ミヤマチマバネセセリ、ツマジロウラジヤノメなど浪館と同じく80種の蝶を有する。

高田の Zephyrus

- | | |
|-------------------------------|---------------|
| 1. アカシジミ | 2. ウラナミアカシジミ |
| 3. ムモンアカシジミ | 4. ウラゴマダラシジミ |
| 5. オナカシジミ | 6. ミスイロオナカシジミ |
| 7. ウラスヂシジミ | 8. ウラクロシジミ |
| 9. ミドリシジミ | 10. オオミドリシジミ |
| 11. ミドリシジミ
メスアガ | 12. ハヤシミドリシジミ |
| 13. ウラジロミドリシジミ | |

高田は上記の如くカシワ林が良く発達しているのがカシワを食草としているものが多く、ウラジロミドリシジミ、ハヤシミドリシジミ、オオミドリシジミの凝縮と並ぶ棲息地である。オオミドリシジミはその他コナラも食するが余り目立たない。その他上記のセイフィルスが分布しているが、凝縮でミスナラを食しても、高田ではカシワを食す傾向がある。オオカシジミの食草はオニスルミであるが、高田の調査範囲は広く、深山にはマンサク(ウラクロシジミ)も見られるわけである。低山地林側の畑地にはイボタが生垣となっているが、この辺にはウラゴマダラシジミも見られる。

滝沢

青森駅起算ノ5km、それも滝沢は野内川の上流にそつて約8kmの深い谷間であり、山容は奥に険しく昼でも日光の当らない場所がいくつもあるほどです。標高200~300m。積雪2~3.5m。調査地域は主として川に平行した沿道である。植物相としては杉、檜葉が多く川端にはZephyrusに關係のある植物が巨体を並べている。ミスナラ、コナラ、オニスルミ、スナ、ハンノキ、マンサク、コバノトネリコヤマハククラ等である。しかしカシワは見あたらない。この樹木の高さは凝縮、高田に比較すると一般に高く10m~13m位の老木ばかりである。

滝沢の Zephyrus

- | | |
|--------------------------|----------------|
| 1. アカシジミ | 2. ムモンアカシジミ |
| 3. ウラキンシジミ | 4. オナカシジミ |
| 5. ミスイロオオカシジミ | 6. ウスイロオナカシジミ |
| 7. ウラスヂシジミ | 8. ウラクロシジミ |
| 9. ミドリシジミ | 10. メスアカミドリシジミ |
| 11. アイノミドリシジミ | 12. エゾミドリシジミ |
| 13. フジミドリシジミ | |

こゝはミスナラ、ヤマハククラが多くミスナラにはエムミドリシジミが多く棲息しており青森市のエムミドリシジミの唯一の産地である。その他ウラスヂシジミは他のどの場所よりも多い。またヤマハククラにはメスアカミドリシジミが多く産し7月~8月上旬まで見られる。5月、若目が大部ふぎ出した頃には、オナカシジミの卵の採集に最も適している。

アカシジミについては凝縮に次ぐ棲息地であり、同様にミスナラを食草としている。ウラキンシ

ジミ、ウスイロオナカシジミ、ウラクロシジミは極稀である。フジミドリシジミは樫懸地帯がきわめて極地的であり、滝沢に於けるそれは断崖絶壁のため採集は不可能に近く観察出来るのみである。アイノミドリシジミはエソミドリシジミと混同して見られるが極である。

ビイファイルス以外の蝶相に少しふれてみると、まず最初に現われて来るのが白い舞姫のウスバシロチョウである。滝沢は本種の唯一の樫懸地帯であり、しかもきわめて多数の発生をみる。その他には特異な場所であるので、他の地には大く見られないものが種々。カラスアケハ、ミヤマカラスアケハ、ズギタニルリシジミ等々である。

八甲田

葛森駅起30km、標高600～1500m。山容は険く、積雪5m～7m、全国的産地として知られている所で高山植物が豊富である。植物相として、ナラ類、スナ類、カイテ類、ナナカマド、トチなどである。その中でもスナ、ミスナラの20m～30mの原始林が主である。Zephyrus に関する種物としてスナ、ミスナラ、マンカク、コバノトネリコ、イボタが目立っている。

八甲田のZephyrus

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. アカシジミ | 2. ムモンアカシジミ |
| 3. ウラキンシジミ | 4. ミスイロオナカシジミ |
| 5. ウスイロオナカシジミ | 6. ウラスジシジミ |
| 7. ウラクロシジミ | 8. アイノミドリシジミ |
| 9. ヌスアガミドリシジミ | 10. ジョウサンミドリシジミ |
| 11. フジミドリシジミ | |

ジョウサンミドリシジミは八甲田のみ、しかも八甲田のZephyrus 中で一番多く樫懸している種である。次にアイノミドリシジミが多くジョウサンミドリシジミと混合して樫懸している。このことは佐々木完治氏が詳しく述べている。八甲田山数回の調査にも拘らず、滝沢以外の地で記録されていなかったウラキンシジミ、ウスイロオナカシジミが今年(1957)の調査で以外にもウラキンシジミ40余頭、ウスイロオナカシジミ70数頭が記録され今年調査の特異をなすものである。フジミドリシジミは滝沢に比較すると個体も多く採集も容易で8月上旬まで樫懸している。

ウラクロシジミは白岩後谷間で著しく多くの個体が発生し、銀色の翅を輝かして枝上を飛びまわっている。ウスイロオナカシジミはミスイロオナカシジミと混合して樫懸し、タ方ミスナラの頂上を遊覧に飛びまわり、朝などは手で捕えることと出来る。

青森市産Zephyrus分布及び食草要目一覽

青森市のZephyrusの分布を知る一つの資料としてここに発表した次第である。

四——三

種名	八甲田	瀬沢	高田	浪館	備考
<i>Japonica lutea</i> アカシジミ	ミズナラ	ミズナラ	カシワ	ミズナラ	6月下旬～8月上旬発生
<i>Japonica saepesaria</i> ウラナミアカシジミ	不明	不明	ミズナラ	ミズナラ	7月～8月中旬発生
<i>Coreana ibara</i> ウラキンシジミ	コバトネリコ	コバトネリコ	不明	不明	7月中旬～8月発生
<i>Artopogon pterygi</i> ウラゴマダラシジミ	不明	不明	イボタ	棲息確定 食草不明	7月～8月発生
<i>shirozua jonasi</i> ムモンアカシジミ	棲息確定 食草不明	棲息確定 食草不明	棲息確定 食草不明	棲息確定 食草不明	成虫多数採集するのみ 食草不明
<i>Araragi enthea</i> オナガシジミ	不明	オニグルミ	オニグルミ	不明	7月下旬～8月発生
<i>Antigonus attilia</i> ミスイロオナガシジミ	ミズナラ	ミズナラ	ミズナラ	ミズナラ	6月下旬～8月発生
<i>Antigonus buteri</i> ウスイロオナガシジミ	"	"	不明	不明	7月中旬～8月発生
<i>Wagino signata</i> ウラスジシジミ	"	"	カシワ	ミズナラ	6月中旬～8月発生
<i>Faonius fujisanus</i> フジドリシジミ	スナ	スナ	スナ	不明	7月中旬～8月発生
<i>Faonius orientalis</i> オオドリシジミ	不明	不明	カシワ コナラ	カシワ	6月中旬～8月中旬発生
<i>Faonius cognatus</i> ジョウサドリシジミ	ミズナラ	"	不明	不明	7月～8月発生
<i>Faonius jezoensis</i> エビドリシジミ	不明	ミズナラ	"	"	7月中旬～9月中旬発生
<i>Faonius ultramarinus</i> ウスバシドリシジミ	"	不明	カシワ	カシワ	6月中旬～8月発生
<i>Faonius saphirinus</i> ウラシロドリシジミ	"	"	"	"	6月中旬～8月発生
<i>Neozephyrus tazila</i> ミドリシジミ	"	ヤマハンキ	ヤマハンキ	ヤマハンキ	7月～8月発生
<i>Neozephyrus aurivinus</i> アイミドリシジミ	ミズナラ	ミズナラ	不明	不明	7月中旬～8月発生
<i>Neozephyrus smaragdinus</i> クスアカミドリシジミ	棲息確定 食草不明	ヤマザクラ	棲息確定 食草不明	棲息確定 食草不明	7月～8月発生
<i>Imtsume oesedice</i> ウラクロシジミ	マンサク	マンサク	マンサク	不明	6月中旬～8月発生
棲息確定 19種	11種	13種	13種	11種	

正 誤 表

原本に「正誤表」が付属している場合、該当部分を以下に転記しています。「行」は、原則としてタイトル行なども含む上からの行数です。（「u」が付く場合は下からの行数です。）

頁	行	誤	正
18	3	Zep hrus	Zephyrus
19	4	70087	700.87
19	u6	食草確定幼虫、	食草確定は、
19	u3	斜めらか	滑めらか
20	5	蝶相	蝶類
20	u2	有す。	産す。
21	7	11 ハヤシミドリシジミ	11 メスアカミドリシジミ
21	29	(種名追加)	(復刻版は手書きの追加有り)
21	u3	若目	若葉
22	2	極地的	局地的
22	3	極である。	稀である。
22	5	唯一の	「唯一の」を削除
22	6	大きく	多く
22	12	マンカク	マンサク
22	15	2 ムモンアカシジミ	2 エゾミドリシジミ
22	20	(種名追加)	12 オオミドリシジミ
22	28	着しく	著しく
23	表	ウラキンシジミの滝沢	コバノネリコ → 不明
23	表	ムモンアカシジミの八甲田	生息確定/食草不明 → 不明
23	表	オオミドリシジミの八甲田	不明 → 生息確定
23	表	エゾミドリシジミの八甲田	不明 → 生息確定
23	表	ハヤシミドリシジミの行	「〃」 → 不明
23	表	ウラジロミドリシジミの行	「〃」 → 不明
23	表	ミドリシジミの行	「〃」 → 不明
23	表	八甲田生息確定	11種 → 12種